

地はひとつ大白蓮の花とみぬ

雪の中より日ののぼるとき

歌 意

刻々と昇りゆく太陽に染められて雪原全体が薄紅色に輝いています。まるで巨大な蓮の花のようです。このように美しい朝には、地球はかけがえないものだと思ってしまう。

掲出歌集

初出

『夢之華』明治39（1906）年9月

「婦人世界」明治39年3月 題は「小ぐるま」

（晶子28歳）

